

全体講座案内

1. ホームページの構成

本講座は、2015年1月から「1級建築士」を取得するための講座として立ち上げました。

その後、多くの方から「2級建築士、構造・設備設計1級建築士」の講座も開設して頂きたい意見があり、2017年1月にセンターから過去問の使用許諾を頂き、各講座を立ち上げました(図1参照)。毎週月曜日に完成資料を追加アップ中であり、手作り感を脱却できない一面はありますが、会員講座(1級、2級、構造・設備1級)の全ての資料が見れて、年会費2万円(翌年延長1万円/年)というリーズナブルな価格設定であるので、ご利用いただければ幸いです。

※1級建築士を受験される方へ

1級建築士は、大学卒業後2年で受験できるが、ここは、2級建築士を受験されてから、1級建築士にチャレンジされることをお勧めする(2級建築士は直ぐ受験可能)。その理由は、1級建築士は、近年非常に難しくなっており、合格まで数年を要する。他社通学における合格平均費用は、200万円とも言われている。

2級建築士の試験問題は、基本的に1級建築士の問題とかなり類似しており、また基本的な内容の出題が多い。つまり、2級建築士を学習してから1級建築士に望んだ方が、基本事項をしっかり学べるので、いきなり1級建築士を受けるより早く合格できると推定する。製図試験の経験を得ることも高く評価できる。2級建築士合格後に他社通学した場合、結果的に1、2年(50~100万円)で合格できる可能性が高まるので、出費面からも有益と判断できる。また、2級建築士は、合格率も比較的低い(下記参照)ので、合格がし易く、その結果、資格を持っているという安心感を得られる点も大きい(精神的にゆとりを持って1級建築士に望める)。

- ・1級建築士(H28合格率):学科=16.1%、製図=42.4%・・・ストレート合格なら**6.8%**と弁護士並みの難易度
- ・2級建築士(H28合格率):学科=42.3%、製図=53.1%・・・ストレート合格でも**22.5%**と難易度が低い

なお、1級建築士(学科)に何年も合格できない方は、一度、2級建築士の問題を解かれることをお勧めする。1級建築士の問題は、かなり詳細な部分の出題が多く、勉強しても勉強しても点数が上がらない蟻地獄に落ち込む場合がある。その時に、2級建築士の問題を学習すると、問題傾向としては1級建築士に近く、基本的な問題が多いことから、意外に点数が急に上がってくることにもなりえる。壁に当たった場合、少しの時間を2級建築士の学習とするのも一つの打開策である。

※2級建築士を受験される方へ

2級建築士を受験される方は、将来を見据えることと、難易度の高い問題が解けるようになるので、少しでも1級建築士の講座を学習することは有益である。2級建築士の試験問題は、基本的な問題が多いが、近年、少しずつ1級建築士の問題に近い「細かい部分の問い」も多く出題されるようになってきている。学習時間の確保次第であるが、2級建築士の問題の中の難易度の高い問題を解答できるようになるには、1級建築士の問題を解いた方が効果が高い。ただし、2級建築士は、1級建築士の問題を解かなくても十分合格できる。2級建築士の合格率なら、過去問**10年**の学習で合格できると判断している。

※構造設計1級建築士を受験される方へ

研究会の実行委員1名は、長年構造設計をしているベテランであるが、1回目の受験では、過去問学習をしないで受験し合格できなかった。受験すると分かるが、問題はかなり難しく、設計ベテラン者でも簡単に合格できない。ただし、過去問を学習すると、比較的容易に合格できる。構造設計1級建築士の過去問解説書は販売されていないこともあり、他社通学では**40万円**を超える講座もある。当研究会は、過去問解説だけとなるが、2万円/年のみである。この試験は、受験費も易くないので、しっかり過去問を学習し、1回で合格して頂ければ幸いです。

※設備設計1級建築士を受験される方へ

設備設計1級建築士は、「建築設備士」を持っていると、試験は「法適合」だけとなる。しかし、この法適合だけでも、テキストをかなり読込、マーカー、付箋して試験に望んでも、簡単に合格できない。その理由は、1問6分で間違い箇所を見つけて、その理由を記述しないといけないという点である。また、4科目「空調、給排水、電気、搬送」の各5問解答には、足切があるので、時間が無くなりどれかの科目が殆どできないと不合格となる。建築設備士を持っていない方は、設備設計も試験になるが、その難易度は更に高まる。設備設計1級建築士は過去問解説書が販売されていないこともあり、他社通学では**40万円**を超える講座もある。当研究会は2万円/年なので、ご利用頂ければ幸いです。

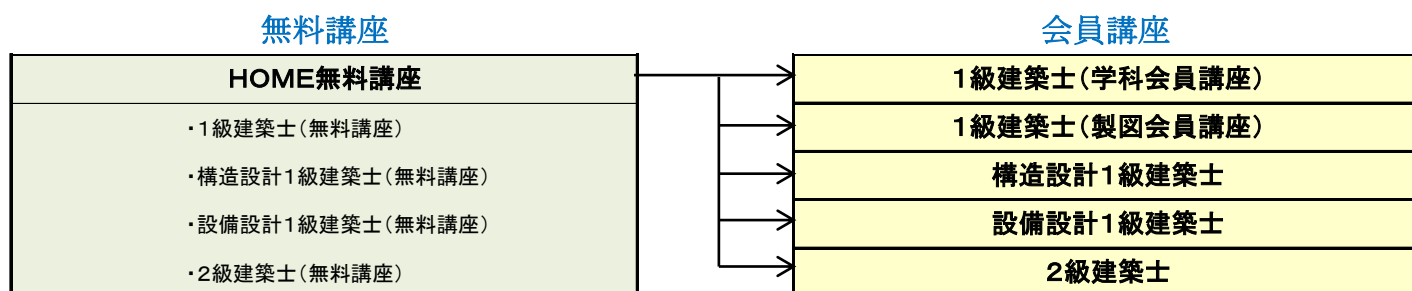


図1 各講座のホームページにおける構成

2. 2017年アップ中の資料

本講座は、「過去問」の把握が最も効率良く早く合格できるとして、資料を取りまとめている。

現段階では、1級建築士の講座が最も充実した内容であり、2017年から構造設計1級建築士、設備設計1級建築士、2級建築士の講座を立ち上げている。2017.2.13現在のアップ資料は、**図2**の黒字部分であり、今後アップする資料は**赤字**の通りである。

なお、毎週月曜日に追加資料をアップしているが、その内容は「HOME無料講座」の一番下の「お知らせ」にて適宜ご連絡する。

無料講座

会員講座

1級建築士(学科無料講座)
1章 学科試験の現状把握
2章 短期間(2ヶ月)で学科を突破する方法
3章 5科目の過去問20年の項目別一覧表(H21~H28)
4章 5科目全問題のポイント一覧表
5章 法規特化型講座

1級建築士(学科会員講座)
1章 5科目の過去問20年の項目別一覧表(H21~H28)
2章 5科目全問題のポイント一覧表
3章 III法規の過去問20年の出題法文一覧表(H21~H28)
4章 5科目の過去問20年の出題問題一覧表(H21~H28)
5章 法規特化型講座(3/31「法令集お手伝い」は終了し「タック配布」へ)
6章 用語解説(適宜追加)
7章 音声講座(2/28「自動解説」は停止し12/31「PDF資料」削除へ)
8章 年度別の問題と詳細解説(H21~H28)(適宜追加)

1級建築士(製図無料講座)
1章 製図試験の現状把握
2章 短期間(2ヶ月)で製図に合格する方法
3章 課題読み解説(基礎編)
4章 図面の書き方(基礎編)
5章 2時間エスキス完了法
6章 記述の解説(基礎編)

1級建築士(製図会員講座)
1章 課題読み解説(応用編)
2章 図面の書き方(3時間スピード作図法)
3章 図面の書き方(減点されない図面表記)
4章 センター標準解答図(H21~H28)
5章 過去問の項目別分析(H21~H28)
6章 記述の詳細解説(H21~H28)
7章 要求室の床面積一覧表(H21~H28)
8章 予測課題の解説(H29予測解説、H29復元図無料採点)
9章 製図試験の採点基準(研究会の独自推定)

構造設計1級建築士(無料講座)
※構造設計1級建築士は会員講座のみでの講座 試験の現状把握や1回で合格する方法はトップの案内参照

構造設計1級建築士(会員講座)
1章 構造設計1級建築士の過去問一覧(H21~H28)
2章 過去問の解答一覧(H21~H28)(適宜追加)
3章 項目別分析(2018年アップ予定)

設備設計1級建築士(無料講座)
※設備設計1級建築士は会員講座のみでの講座 試験の現状把握や1回で合格する方法はトップの案内参照

設備設計1級建築士(会員講座)
1章 設備設計1級建築士の過去問一覧(H21~H28)
2章 過去問の解答一覧(H21~H28)(適宜追加)
3章 項目別分析(2018年アップ予定)

2級建築士(学科無料講座)
1章 学科試験の現状把握
2章 4科目の項目別問題別一覧表(H19~H28)
3章 過去問10年の出題法文一覧表(H19~H28)(適宜追加)

2級建築士(学科会員講座)
1章 4科目の項目別問題別一覧表(H19~H28)
2章 過去問10年の出題法文一覧表(H19~H28)(適宜追加)
3章 4科目全問題のポイント一覧表(H19~H28)(適宜追加)
4章 II法規の過去問10年の出題法文一覧表(H19~H28)(適宜追加)
5章 4科目の過去問10年の出題問題一覧表(H19~H28)(適宜追加)
6章 年度別の問題と解説(H24~H28)(適宜追加)

2級建築士(製図無料講座)
1章 製図試験の現状把握

2級建築士(製図会員講座)
1章 センター出題課題(H24~H28)
2章 センター標準解答図(H24~H28)
3章 センター出題課題の項目別分析(H24~H28)(適宜追加)

図2 2017年のアップ中の資料(赤字項目)